

2021.04.25 聖書の学び
私たちの人生で出会う敬虔な人々(新約聖書:テトス3章12~15節)
JDファラグ牧師

おはようございます。第二礼拝へようこそ。オンラインで参加してくださっている皆さん、とても嬉しく思います。日曜日の朝には、二つの礼拝があります。第一礼拝は、「聖書預言・アップデート」で、第二礼拝は、聖書全体を通して「聖書の学び」です。現在「テトスへの手紙」を学んでいます。

御心なら、今日で「テトスへの手紙」を終える予定です。聖書箇所は、3章12節から15節までです。テトスへの手紙が終わると、次は「ピレモンへの手紙」です。非常に短い手紙です。ピレモンへの手紙の後には、何が来るか知っていますか? 「ヘブル人への手紙」です。そうなんです。今朝、このことについて考えていました。木曜日の夜は、「イザヤ書」を読み進めています。お気づきですか? 今から数週間後まで、携挙が起こらなければ、木曜日の夜は「イザヤ書」、日曜日の朝は「ヘブル書」を読むことになるのですよ! これ以上の素晴らしいことはないですよ。とても楽しみです。ヘブル人への手紙の後には、ヤコブの手紙、そしてペテロの手紙第一、第二、ヨハネの手紙、第一、第二、第三。とても短いユダの手紙、そして黙示録です。そうなんです。そのあとに、携挙が来るかもしれません。実際、携挙は今すぐにでも起こり得ます。ありがとうございます。さて、出来れば立っていただき、「テトスへの手紙第3章12節」から読みますので、ついてきてください。これで使徒パウロのテトスへの手紙は終わりです。実は、画面を見てほしくないのですが、日付が間違っていたり、先週の文章が入っていたりしたので、出さないようお願いしようと思っていたのが、(どんな一週間だったか、想像がつくと思います。)彼らがそれを修正してくれましたが、私が台無しにしたとき、元に戻してくれました。--とにかく、私の問題はもう十分です。御言葉を読みましょう。一緒についてきてください、12節から。

テトスへの手紙第3章

12私がアルテマスかティキコをあなたのもとに送ったら、あなたは何とかして、ニコポリスにいる私のところに来てください。私はそこで冬を過ごすことにしています。

13律法学者ゼナスとアポロが何も不足することがないように、その旅立ちをしっかりと支えてあげてください。

14私たちの仲間も、実を結ばない者にならないように、差し迫った必要に備えて、良いわざに励むように教えられなければなりません。

15私と一緒にいる者たちがみな、あなたによろしくと言っています。信仰を同じくし、私たちを愛してくださっている人たちに、よろしく伝えてください。恵みがあなたがたすべてとともにありますように。

お祈りしましょう。よろしければ、ご一緒におねがいします。主よ、本当にありがとうございます。あなたの御言葉に感謝します。今日、私たちに与えてくださった、あなたの御言葉に感謝します。

主よ、あなたが私たちに見せてくださりたいものがここにあるのを知っています。そうでなければ、私たちはここに、あなたの御言葉の中にいないでしょう。あなたが、私たちに語られることがここにあります。私たちは聖霊を求めます。どうか主よ、あなただけがおできになる方法で、はっきりと、個人的に、必要であれば内密に、私たちの人生に、私たちの心に、あなたの御言葉を通してお語りください。

イエスの御名において祈ります。アーメン、アーメン。

ご着席してください。ありがとうございます。今日のこの箇所を、とても楽しみにしていました。今日は、主が私たちの人生で、私たちを励まし、助けとなるように送られる敬虔な人々についてお話したいと思います。さて、私が痛感したのは、パウロがテトスに宛てた手紙の最後にあるこの文を読むとき、最初は、取るに足りないものと思ってしまうことです。つまり、彼がしていることは、ちょっとした締めくくりで、私たちがしていることと同じように、みんなに挨拶をして、愛を伝え、そこにいる二人の男を世話するように伝え、正直になりましょう、私たちは教会にいるのです。しかしこのような節を読むとき、もしあなたが私同様なら、そうだと思いますが、何となくこれを読んで、見過ごし、次の箇所に移ってしまうのです。そんな目で見ないでくださいよ。皆さんもそうでしょうか? 結局のところ、手紙の結びのようなもので、教義的なものではないと。ああ、確かにこれは手紙の最後の、形式的なものかもしれませんが...そうでしょうか? 私たちが知っている真実は、すべての聖書の御言葉は神の息吹、靈感によるものだということです。(第二テモテ3:16参照)

「ねえパウロ、このテトスへの手紙は短いから、少し足してみようよ」と神が仰ったなどと想像してはなりません。そうではありません。神の御言葉の中にあるすべての言葉は、理由があってそこにあるのです。それは私たちへの指針、私たちへの励まし、時には、嬉しくはありませんが、叱責のためなのです。

それには理由があり、今日はそのことについてお話したいと思います。よく考えてみると、この箇所では、使徒パウロが聖霊によって時間をかけて、神がちょうどよいタイミングで自分の人生に送って下さった人々について言及していることがわかります。ここでは、パウロが言及している4人の男性に注目していただきたいと思いたくつかの理由がありますが、その中でも特に重要なのは、4人の男性は実在の人物であり、使徒パウロと本当に良い友人であり、使徒パウロのためにそこにいて、使徒パウロを愛し、パウロも彼らを愛していたということだ

す。あたりまえのように聞こえるかもしれませんが、私たちは皆、このような聖書箇所、特に手紙を読んでいるとき、これらの人々を、現実の人として見ないという大きな間違いを犯しがちです。彼らは、皆さんや私と同じような人々でした。確かに彼らは異なる服を着て、習慣も非常に異なっていました。その当時は、特にイエス・キリストを信じ従う者として、大変違っていました。しかし、彼らは私たちのような人々であり、私たちが天国で会うことになるキリストの兄弟たちです。私たちは、パウロの手紙の最後で、彼らを紹介される特権のある者なのです。実際に、前にも紹介されていましたが、パウロはここで彼らについて言及し、そうすることで...、これが、聖書にこの一節がある理由だと信じています。これは、神がいつもご忠実に、いわばこのような時のために、私たちの人生に送ってくださる人々のタイプを、語っています。つまり、これらの人々はとても祝福されていて、神もそれを知っておられるということです。神はあなたの人生の中に彼らを連れてきて下さり....、

考えてみてください、これは使徒パウロの話です。あなたが、使徒パウロをどのように心に描いているかわかりませんが、きっとこんな風に、思っているでしょう。力強く、不屈の精神で、部屋に入ると誰もが話を止め、「あれがパウロだ！！」「あの人を誰だか知ってるか？！」しかしこの男は、私たちと同じように、非常に疲れ、非常に落胆し、言いようのない困難を経験した人でした。この人は、自分のために

そばにいてくれる兄弟を必要としていたのです。彼には友人が必要でした。そして神はその人を、彼が本当に必要としていた人生での完璧なタイミングで、彼の人生に送ってくださったのです。それが、私たちが見ようとしていることで、繰り返しになりますが、これが聖書に書かれている理由だと思います。以下は、神がいつもご忠実に私たちの人生に連れてきてくださる、3つのタイプの人々です。因みに、神が送って下さり、あなたが愛されていることを知ると、そのような人々を決して失いたくないと思うのです。最初は12節にある「忠実な励まし手」です。素晴らしい。教会には励ましてくれる人がいるのですね。そう思いませんか？ パウロは、冬の間ニコポリスにいたので、テスと一緒にいてほしいと言い、アルテマスかティキコを送るからすぐに来てほしいと言っています。アルテマスについては、よくわかっていません。歴史学者や聖書解説者の中には、彼が当時その地域の教会の牧師だったとする人もいます。確かに彼は、聖書には何の記述もありませんが、使徒パウロの忠実な友人であったことは確かです。

なぜかという、パウロはアルテマスかティキコのどちらかを派遣するという判断をしていて、そのことが示しています。どちらも、忠実なしもべであったことを示しています。ここで、改めて言っておきたいことがあります。とても重要なことなので、どうかお見逃しなく。"faithful(忠実な)"という言葉

"loyal(忠誠心のある)"という言葉と同義で使いたいと思います。なぜかという、この人たちは一言で言えば「忠誠心」という現代には稀なものを持っていたからです。彼らは忠実で、信頼でき、頼りになり、忠誠心のある人です。パウロが、テスを来させるために、「この二人のどちらかを送る」と言っていることから、彼とテスの関係について何か分かるはずで、彼はテスをとても愛していました。

パウロは、テスに来て欲しいと願ってました。代わりに誰かを派遣しなければならないので、候補の一番にあげたのが、この二人なのです。その理由は、彼らが忠実だったからだだと思います。特に忠誠心が強かったのです。「使徒の働き20:4」で、ギリシャでユダヤ人たちがパウロに対して陰謀を企てた後、パウロがマケドニアを通過してシリアに向けて船出したときに、ティキコが、同行した兄弟の一人であることが語られています。考えてみてください。ティキコは、パウロが陰謀によって殺されそうになった時にも

彼に忠誠を尽くしていました。私たちにも、そのような時に、ティキコがそばにいてくれるとありがたいですね。

「コロサイ人への手紙4章7～9節」で、パウロはティキコについて、述べています。

「愛する兄弟、忠実な奉仕者、主にある同労のしもべである」彼をオネシモという名の男と一緒に送るのは、彼らの境遇を知り、パウロのことを語り、彼らの心が励まされるように、という明確な目的のためです。いいですか、ここにパウロがいます。ティキコはとても忠実な人です。彼はとても励みになります。彼は本当に祝福です。

「私はティキコをあなたのもとに送るつもりです。あなたが励ましを必要としていることを知っていますし、彼はあなたの励みになるでしょう。」このような状況でパウロは、本当に彼らを励ますことのできる人を送る必要があると

考えたのです。励ましの必要性について、少しだけお話させてください。何年も前に、警察官と救急隊員を区別する、素晴らしい例えを聞いたことがあります。交通事故が起き、現場へは警官が最初に到着しました。警官の役割は、誰が法律に違反したのか、誰が赤信号を無視したのかを判断することです。しかし、救急隊員が到着したときは、彼らの目的は、誰が悪いのかを確認することではなく、負傷者に対応することです。私の言いたいことがわかりますか？ この話は長年にわたって私の心に残り、長い間、私を助けてくれました。つまりこんにちの教会には、あまりにも多くの警察官がいて、

ほとんど、救急隊員がいないということです。ところで「パラ」という言葉を知っていますか？ 新約聖書の原語のギリシャ語ではParaclete(パラクレート)といい、聖霊を表現していますが、para(パラ)、parallel(パラレル)、paramedic(救急隊員)、paralegal(弁護士)、parachute(パラシュート)、para(一緒に来る)という意味です。これはパラ、すなわち、私のそばには誰かが必要なのです。一緒に来てくれる人が必要なのです、ティキコが必要なのです。私には救急隊員が必要なのです。警官はいらない。

「誰が悪いのかはもうわかっている！」「あなた？」「いいえ、私です、私が悪いのです。誰が悪いかは分かっています。」「それを助長してもらふ必要はありません。」ところで、「律法」に関して言えば、それは私たちの役割ではな

く、主のものです。私たちは、救急隊員になる必要があるのです。ところで、もうひとつの例えです。それは健康な体のことです。不健康な体には、身体の他の細胞を攻撃している細胞があります。実際にそれを表す言葉があります。それが何であるか知っていますか？ いいですか？ 「癌」です。そうです。健康な体とは... さて、また別の例えがあります。今日は、例えでお腹いっぱいだと思いますが、これは、私が気に入っている例え話です。釘を打つときに、親指を叩いてしまうことってありますよね？ 皆さん、話を完成できると思いますが、全身痛みます。特に、私のように痛みに弱い人間は。

私はさかむけが出来たとき、私は主に向かって祈ります。「ああ、イエスよ、ああ主よ！手にさかむけができました！」全身が慌てふためきます。それは外見上のことですが、内面的は、体のすべてが「非常事態！非常事態！緊急事態！」です。親指をハンマーで叩いてしまった愚かで、間抜け者がいます。そして、もう片方の手はどうするか？ もう片方の手は何をしているかという、愛して、キスして...、という感じです。実際に話しかけています。

「ああ、大丈夫だよ。ごめんね、ごめんね、ハンマーを使うべきじゃなかった。本当にごめんなさい。」想像できますか？ハンマーで親指を叩くと、もう片方の手が「自業自得だ！」と言うのを。何だって？私たちが傷ついたときにはティキコが必要です。「テモテ人への手紙第二、4章12節」にもそのことが書かれています。これはとても興味深いことです。パウロはティキコをエペソ(テモテがいる場所)に送って、テモテに早く来てほしいと願っていた、と言われていますが、その理由は以下の通りです。デマスが自分を見捨てたばかりに、金属工のアレクサンドロが、危害を加えたというのです。

「テモテ、あなたが必要なのだ。」「ええ、でもあなたは使徒パウロですから、誰も必要としないでしょう？」「いや、私にはテモテが必要なのだ。だからティキコを送ります。」「私は今、兄弟が必要なんだ、私は深く傷ついている。裏切られ、捨てられたんだ。傷つけられて、とても傷ついています。テモテ、あなたが必要だ、あなたが必要なのです。」

テモテを想像してみてください。「すぐ行きます。パウロ。そこにいるだけで、あなたがそこにいるだけでいいのです。私は、嘆く側と、嘆きを受け止める側の両方を経験したことがあります。私が嘆く側の者であったとき、ただそこにいるだけで、私を支えてくれる友人たちがいました。何も言わなくても、ただそこにいるというだけで慰めになるのです。それがティキコです。すべてを捨てて、あなたのために、ただそこに居る忠実な励まし手です。私は、その反対側にいたこともあります。嘆く人と一緒に嘆き、喜ぶ人と一緒に喜ぶ。本当に悲しんでいる人、本当に傷ついている人のそばにいられる特権を得たとき、何も言わなくてもいいんです。実際私たちは、ヨブの友人から多くのことを学ぶことができるのではないのでしょうか？ 私が非常に面白いと思うのは、ヨブ記を通読したときのことです。ヨブ記を勉強しただけでも、何という試練だったことでしょうか。しかし、そこに至るまでは想像するだけでしたが、これは本当に起こったことなんだと思えるようなポイントがありました。かなり生々しい内容でしたが、つまり、彼は...腫れ物がかゆくてたまらないので、割れた粘土の破片でそれを削っています。ガラクタの山、ゴミの山に座っていると、友達が来ます。あなたは彼らの友人のそんな姿を想像できますか？彼らは言葉を失い、一言も言わなかったのが良かったと思います。彼らはただヨブのそばに座って、ただそこに居ただけでした。けれども、彼らが口を開くと、次から次へと、ひたすら話続けました。ヨブの友人たちについて、何が本当に興味深いのか、分かりますか？彼らはヨブを不当に非難し、彼に責任の矛先を向けたのです。その時、ヨブが何よりも必要としていたのは、警官が指をさすことではありません。

「あなたの人生には何か深い罪があるはずだ。」と。いいえ、彼は救急隊員が必要だったのです。結婚関係の文脈で言われることですが、時には夫の皆さん、妻は私たちの忠告を必要とはしていません。助けが必要なのです。これは、自分のこととして話せますよ。非難ばかりしてきましたから。本来ならば、これでいいんです。神が私たちをそう設計したのですから。しかし男性は、自分で問題を解決しようとします。しかし、そう上手くはいきません。私はそれを苦勞して学びました。それを証明する傷跡があります。

「どうしたんだい、ハニー？」と聞くのは、私たちは解決させることが全てだからです！あなたには解決できません。話すのをやめてくれませんか？黙って！それがあなたにできる最初のことです。

「私は助けたいのです。」「私を助けたい？話すのを止めてちょうだい、その方が助かるわ。ただここに居て、聞くだけでいいの。」

ここまで話すつもりはありませんでしたが、もしかしたらこれは、ここに居る誰かのためかもしれません。もちろん、私のことではありませんよ、完璧な結婚生活を送ってます。私は牧師ですから。どこかにカミナリ雲来てますか？だから、あなたは彼らのためにそこにいて、ただ聞いてあげてください。彼らに話をさせ、邪魔しないで、聞いてあげてください。次に何を言おうかと考えてはいけません。それをどのようにするか知っていますか？誰かと会話しているとき、あなたは聞いているようで、相手の言っていることを本当は聞いていません。あなたは「ふーん」とか「そうだね」という返答を適切な場所に入れるのがとても上手です。そして彼らが、「うーん」や「そうだね」と言ったことについて尋ねれば、本当は聞いていなかったのがバレます。なぜ聞いていなかったのですか？自分が、何を言おうかと考えていたからです。なぜならあなたが話すことが、彼らのことより重要だからです。彼らの話を聞いていなかった理由は、そこにあります。そんな目で見ないでください。そうでしょう？私たちはそうしてしまいます。ただ、そこにいてください。ただ、相手のためにそこにいてください。あなたが、そこに居るだ

けでいいのです。そしてここでもうひとつ、最後のひとつです。私はまだ「最後のひとつ」と言ってませんでしたよね？ OK、これは、「複数ある最後のひとつ」のうちの一つです。彼らは、あなたが死ぬほど引用したい聖句を知っています。私が何を言っているか分かりますか？ 私たちは、自分の信心深さに酔っています。「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。」(ローマ人への手紙 8章28節)

その節を引用しないでください。まず、彼らはその節をすでに知っていて、おそらくあなたよりもよく知っています。それは、傷口に塩をすり込むようなものです。彼らが必要としているのは、いいですか、「神が何をされているのか分かりませんが、神は何かをされているのです。私はただ、何が起ころうとあなたのそばにいたいことを、知っていてほしいのです。昼でも夜でも、いつでも電話してくれれば駆けつけます。何時でも構いません。私はあなたのそばにいて、できる限りのことをして、一緒に歩んでいきたいと思っています。」

それがティキコです。それが忠誠心です。それが忠誠心です。これはまた別の機会の話題にしましょう。もう、どこにも忠誠心は残ってません。私の文化の中で、中東のアラブ人として説明してみましょう。実際に、これを手短かに説明できるかどうかやってみましょう。アラブの文化では、言ってみれば昔、彼らは遊牧民で、長い距離を旅して、長い間、食べ物や、水さえもないことがよくありました。長い旅をしている遊牧民が、あなたのテントに来たとき、あなたは彼らをテントに招き入れ、水を飲ませたり、食べ物を与えたりします。そして、あなたは死ぬまで忠実であり、そのために、死に至ろうと忠実なのです。

それが中東の文化的な原動力です。事実上、彼らはあなたの命を救ったのです。つまり、命のための命なのです。彼らはあなたの命を救ってくれました。もし同じ状況になったら、あなたも彼らの命を救うでしょう。それが忠誠心というものです。それが忠誠心というものです。

再び、使徒パウロと、このデマスという男。どうやって、二千年近くの間、こんにちの私たちのような神の全ての民が、後の世代の全てがデマスとアレクサンドロの名前を読んできました。神は、聖霊によって、使徒パウロにこれらの人々の名前を、全世代のために記録させることが適切であるとお考えになりました。なぜ、彼らを辱めるために？ いいえ、このためだと思います。私たちは皆、最も必要な時に、私たちを見捨てたデマスがいます。私たちを深く傷つけたアレクサンドロがいます。しかし、神は、だからこそ、ここに彼らの名前があるのだと思います。彼らは、言い方は悪いですが、アルテマスとティキコによって相殺されているのです。さて、これが13節の2つ目に繋がります。それは「賜物を持った助言者」です。ここでパウロはテスに、ゼナスという名のこの人を助けるために、できる限りのことをするようと言っていますが、彼の職業は弁護士だと言われています。ネット上の弁護士の皆さん、私たちは皆さんをとっても愛していますし、祝福しています。しかし、実はこれはあなた方のような弁護士ではありません。すぐに説明しますのでお待ちくださいね。ゼナスとアポロがいます、パウロはテスに言います。「私は、それが何であろうとかまわないので、彼らが必要とするものは何でも、与えてください。

この人たちは、私にとっても重要な人々です。」さて、このゼナスという男はどんな人でしょうか？ 彼は事務弁護士？ いいえ。法廷弁護士ですか？ いいえ。彼はモーセ律法の専門家でした。お～ そして、アポロですが、私たちはアポロのことは知っています。彼は、非常に賜物が与えられた学者であり、非常に優れた教師でした。彼は優れた弁舌家でしたが、ある問題が発生しました。コリント教会で起きた対立を、パウロは「コリント人への手紙第一3章」で取り上げています。たしか、3章だったと思います。パウロは「私とアポロは同労者だ、アポロは、私よりもはるかに優れた弁舌家だ。」と言って彼らを叱ります。パウロが話すときは、まるで口に砂利が入っているようです。何を言っているのか分からない(アクセントが違う)のです。「私たちはアポロに付く！」ここには別の男たちがいて、分裂が起こっていたのです。彼らは「俺たちはパウロの味方だ！」と言いました。パウロは「やめてくれ！」と言います。「アポロが才能ある教師であることは知っています。非常に才能のある演説者であることを知っています。彼があなたの注意を引くことを知っています。彼の講演や補講の時には、皆が集まってきます。私が町に来ると聞くと、逃げ出すのです。あなたたちは来ません。」「パウロが来る！」「あーあ。」「なあ、今日は誰が話すんだ？」「アポロです。」「おお、いいね、かっこいい！」それがコリントで起きていたことです。パウロはそのことを取り上げ、彼らを叱責します。私がそれを言ったのは、彼らがどのような人物だったのかを垣間見ることができるからです。彼らは非常に才能のある男性でした。これはあくまでも私の主張ですが、謙虚に言うと、彼らは非常に知的な男性でもあったと考えています。なぜそれを強調したかということ、それが何なのかはわかりませんが、クリスチャンである以上、反知性的であることが求められているような気がするのです。間違いなく、神は知性の神です。その知性を与えてくださいます。彼らは知識人でした。とても才能があり、とても賢い人達でした。今の時代に例えれば、パウロが質問したりすると、ゼナスに電話したり、メールを送ったりします。彼は専門家です。神は彼とアポロに賜物を与えられました。間違いなく、この人は自分のことをよく知っていました。彼は偉大な演説者だったかもしれませんが、必ずしも才能のある学者になるとは限りません。でもこの男は学者でした。この人は御言葉を知っていたのです。それを考えてみてください。パウロがそうでなかったわけではありません。冗談でしょ？ 聖書解説者の中には、使徒パウロが非常に高い知性を持っていたと信じている人もいます。

彼がその人なら...それは重要ではなく、無関係です。もし私たちが、ヘブル書の書き手を知る必要があるなら、神は誰がヘブル書を書いたかを、私たちに教えられた筈です。しかし考えてみると、ヘブル書は教義的に非常に重要で強力な書物なので、アポロかパウロのどちらかが書いたのではないかという意見もあるほどです。間違いなく、靈感によるものです。それでも神は人間に与えられた神の知性を用い、それを利用されるのです。言葉は悪いですが、よりよい言い方ではありませんが、キリストのもとに来るとき、自分の知性を殺さなければなりません。なぜなら、言わばこの2つは互換性がないからです。なぜならキリストのもとに来たとき、あなたはただ「ホホホーホー！」です。(笑) それを聞くと...失礼しました。ロードランナー(のCM)でしたっけ？ マズい、フラッシュバックしてしまいました。そういうのを見つけてるでしょう、その概念はこのようなものと繋がっているのに気づきます。そう、盲目的な信仰です。盲目的な信仰？ いいえ、そうではありません。盲目的な信仰ではありません。それは知的な信仰です。知性的な信仰です。神から与えられた知性なのです。聖書の中には、何度も何度も見られ、そのことが記録されています。またフラッシュバックしてしまったのですが、お許しいただけますか？ 学校で先生が「よく考えなさい！」と言っていたでしょう？ 彼らは私にそう言わなくなりまして、彼らは諦めたんです。なんだか、私は思考能力がないみたいです。言い換えれば、神から与えられた知的な知性を身につけること。神は私たちに考える力、推論する力、推理する力を与えて下さっているからです。この信仰は知的な信仰であり、道理をわきまえた信仰です。一緒に推論しましょう。パウロがここで彼らのことに触れたのは、彼らの深い知性、神から与えられた知性、神から与えられた賜物、才能を示しており、彼らは使徒パウロにとってかけがえのない助けとなったのです。「箴言」を通して、私たちは学びました。「詩篇」も、全ての書物もそうですが、とても素晴らしい学びでした。しかし、箴言を通して、何度も何度も、多くの助言者、相談者がいれば、計画は成功するという知恵が何度も記されています。多数の助言、神の助言があれば。しかし、少ないなら失敗する。再度、この件に関しては最後にもう一つ、そして先に進みましょう。まだまだですが、進みましょう。助言が欲しいと認めるには、謙虚さが必要です。そうですね？ おっと、これは使徒パウロの話をしているんですよね？ 「パウロ、君は何でも知っているだろう。」「いや、相談に乗ってほしい。神聖な助言が必要です。一緒に考えてくれる才能ある助言者が必要です。」ああ、神が私の人生に与えてくださった、神聖な助言を受けた人達に感謝します。つまり、アヒトフェルのことを考えると、彼とダビデの関係は最悪の結末を迎えましたが。しかし、ダビデ王が最も信頼していた有能な助言者アヒトフェルについては、彼が話すときは神の託宣のようであったと言われていいます。そして、神はそのようにされるのです。その才能ある助言者を通して、主が語られることがよくあり、それはまさにあなたが聞いたかったことにぴったり合う言葉なのです。そして、神はその兄弟、姉妹、助言者を通して語ってくださいます。

しかし、尋ねるには謙虚さが必要です。

「私がすべての答えを持っていないことをご存知ですね。これはちょっと困っていて、頭を悩ませているのです。」

「私はもちろん、神に祈り求めている、神は御心を明らかにしてくださいます。」

神があなたを御心におきたくないなどと一瞬たりとも考えてはいけません。御心にいるのをあなた自身が望む以上です。そして、私たちが何よりも望んでいることの一つは、神の御心を知ることではないでしょうか。神は天で、チェスゲームをされているわけではありません。想像できますか？

「うわー、JDがほとんど把握している。早く下に降りて、ボードを交換するのだ！！「彼はほとんど理解している。私の御心が何であるかほとんど理解しているぞ。」

違います。むしろこんな感じです。

「ああ、この人は苦労している。誰かを送りなさい。彼にはアポロが必要で、ゼナスが必要なのです。彼らは味方になってくれます。」ここが神のなさる方法です私が「神の御心のテーブルの4本の脚」と呼ぶものです。この4本全てが必要ですが、何よりもまず、神の御言葉です。神の御言葉と相容れないものは、神の御心ではありません。もし、神の御言葉に書かれていなければ、神の御言葉の権威に基づき、

それは神の御心ではないと断言します。何よりもまず、神が御言葉を通してあなたに語りかけ、助言してくださいます。つまり、1番は神の御言葉。2番は神の平安です。これは非常に重要なことで、繰り返しになりますが、これらは全て連動しており、1つのものが他のものと調和しています。そして聖霊が「これが道です、進みなさい。」と言ってくれるような平安です。これは、私と聖霊の間では良いことです。

聖霊があなたの霊で証言しているのです。そして、これが神の御心であり、神の御言葉であるという超自然的な平安を得ることができます。これを裏返してみると、対比しやすくなるかもしれません。もし、一時停止や抑制など、何か違和感があつて平安を感じないなら、絶対に絶対にそれに逆らわないでください。なんということ、やっってしまったんです。私は苦労して学び、それを証明する傷跡があります。神は...神は私たちの歩みを導かれますが、立ち止まることも導かれると言われていいます。そして、もし神がその決断に平安を遠ざけておられるなら、決して動かないでください。オズワルド・チェンバースはこのように言っています。「疑問があるときは、しないこと」それは、神があなたを抑制し、止めておられるのです。神があなたを否定しておられるわけではありません。「時に、それは私の御心ではなく、私のタイミングではないこともあるのです。」これはあの名言です、本当によく言ったものです。

「私が間違っているとき(wrong)、神は”成長しなさい(grow)”と仰ります。要望が間違っていると、神様は”いいえ

(No)”と仰ります。タイミングが間違っていると、神は”ゆっくり(slow)”と仰ります。しかし私が正しく、要望が正しく、タイミングが正しいとき、神は ”行きなさい”(Go)と仰ります。青信号を待ちましょう。私たちがすることは？ 今から、運転の描写を用いましょう。よく聞いてください、私はこれをよく知っています。私はこれの学位を持っています。黄色信号を見るとどうなりますか？ 黄色信号が何であるか知っていますか？ 念の為に言いますと、黄色信号は「減速して止まる準備をする」ということです。しかし、私は急いでいます。じゃあ、黄色信号の時はどうすればいいですか？ ああ、そういえば、これは陰謀です…。私が教会に行く途中、どれもこれも黄色信号なんです。神は、神が信号機を使わなければならないのは、かなり悪いことだと仰っています。何を使ってでも、ですよ？ しかし、黄色信号を見てどうするかというと…スピードを上げるのです！ そうですよ？ どうしたんですか？ 私たちは教会にいます。自分に正直になりましょう。黄色信号が、あなたの命を救うことを知っていますか？ 私たちには警察官の姉妹である、大切な友人がいます。彼女はある時、私たち夫婦が食事に行った時に、いくつか話をしてくれて、私が警察官が大好きなのは、彼らにはたくさんの物語があるからです。彼女は、スピード違反をした人を捕まえて、こう言うんだと話していました。そうすると、その人は何も答えられなくなってしまうんです。彼女はあなたが逃れようとしているチケットを書いています。そしてその理由として、最も壮大な理由を考え出すのです。

「ああ、こんなにスピードが出ているとは思わなかったんです。」これって、必ず言う言い訳の一つですよ。私は実際にすべてのリストを持っています。もしご希望であれば、後ほどメールでお送りします。

実は私、33年以上も交通違反をしたことがないんですよ。地域の立派な市民だと思います。それは、私が制限速度を超えないからではありません。捕まったことが無いだけです、主を讃えます。しかし彼女は、チケットを切るときに、彼らにこう言うのです。「あのね、私はあなたの命を救ったのかもしれないのよ。」では、そのことをこの箇所の文脈で考えてみましょう。神はあなたを救いたいと思っておられます。あなたは、多くの助言者がいることで安全があることを知っていますか。神はしばしばあなたをあなたから救いたいと思っておられます。神はあなたを、あなた自身から救おうとしておられるのです。なぜなら、自身の気質や性癖のゆえに、黄色信号をすべてすっ飛ばしてしまうからです。あなたは自分で危険を冒しています。そして、神はあなたを止め、遅らせることを望んでおられます。3番目：「神の摂理による境遇」あなたには、神の御言葉、神の平和、神の摂理があります。これは、神がその御言葉と彼の平安とを調和させて状況/境遇の道筋を演出し、あなたの歩みを編成されることです。ここで、ある扉が閉められ、方向転換します。ある扉が開かれれば、そこを進みましょう。そして隣の扉が閉まり、あなたは窓を探しています。なぜなら、神は窓から入ってこられることがあるからです。私たちは「神よ、扉を開けたまえ。」と言いますが、神は「今回は扉ではなく、窓を使いたいです。」と。それは神の主権の中で、神に演出された摂理的な状況であり、ある種の確認/確信なのです。神の御言葉と神の平安が、突然、状況が一致して、それが神の方法によって、確認されたということです。そして、4番目がここで言っていることです。それは、あなたのそばにいて、あなたに助言し、励まし、相談にのってくれるキリストの兄弟姉妹のことです。敬虔な助言です。そしてそれらは、神の御心というテーブルの4本の脚です。この先に進む前に知っておくべきことがあります。金曜日だったと思いますが、パウロが言及している4人のうち、3人の名前に関係しています。テキコ他に、アルテミス、ゼナス、アポロがいます。さて、なぜそれが重要なのか？なぜなら、3人の名前はいずれも、当時の最も異教的な神々に由来しているからです。アポロ、ゼウス、アルテミス。これらは悪魔のような神々でした。そんな名前をつけられて、どう思いますか？ 現代に置き換えて考えてみても、なかなか思いつきませんが、それが彼らの名前でした。

ちなみに、当時、その文化の中では、その名前は自然だったのです。ただ残酷な親ではなかったのです。

「おい、アポロと名付けよう。」「そうだ、ワヒドという名前にしよう。」「(JD牧師のアラブ語の名前)いい名前でしょうが、彼はそれを変えて、法的な別名を考えなければならなくなります。では要点は何か？ 要点はこうです。神があなたの人生に大きな影響をお与えになるために、誰を選び、用いられるかはわからないということです。ところで、神が、彼らを選ばれます。繰り返しになりますが、私はオズワルド・チェンバースを強く支持していますが、彼は次のようなことを言っています…。チェンバースではなく、トーマーだったかもしれません。2人が書いたものを読んでいるうちに自分の救いに疑問を持ち始めるのです。彼らはただ、挑戦的に、そして単刀直入に要点を付きます。それは良いことです。しかし、彼は次のようなことを言いました。

「神があなたの人生で、ぶどうをつぶしてワインにするのに用いる手を、あなたが選ぶことはできません。」もし私に選択権があったとしても、彼らを選ぶことはありません。私は彼らを望んでいません。むしろ、○○兄弟が良いです。しかし、彼らは天国の紙やすりのようなものです。私が何を言っているのかわかりますか？ 彼らは私の第一候補ではありません。私は…つまり、正直に言いましょ。私はアポロを選ばないし、それどころかこのゼナスも選びません。私は、ラリーかボブを選びます。彼ら二人の方が、もっと良いです。でも、そういう人たちを決して見下してはいけません。彼らは最後にして最小の存在なのです。神が選んで用いるとは思えないような人たちです。なぜ神がそうされるかわかりますか？

それは第1コリント3章にあるアポロとパウロの問題に関連しているからです。パウロが続けて言ったことをご存知ですか？

「しかし神は、知恵ある者を恥じ入らせるために、この世の愚かな者を選び、強いものを恥じ入らせるために、こ

の世の弱い者を選びました。」(第一コリント1:27)

いいですか、私たちはそれをしませんよね。人間は外見を見ます。でも神は心を見られます。私たちは惹かれ、強い者、賢い者を選びたいと思う傾向があります。

「私には賢明な助言が必要なんだ。知恵のある人が必要なんだ。どうもありがとうございます。」

パイプと帽子を想像してみてください、わかりませんが、ビーニー帽のようなものでしょうか。

「よくぞ聞いてくれました。私の考えでは、どうやら...」そうではありません。神はゼナスやアポロを連れてこられます。「パウロ、君！」こういうことです。「私はそれを選ばなかった。私は違う人がいい。」

神が選ばれ、使われる人を、決して否定してはいけません。最後の14節と15節ですが、これは大変なことで、他のものがそうでないというわけではありませんが、これらは献身的な助っ人たちです。パウロのテスへの最後の発言は、まさに「善いことを行うことに専念し、緊急の必要性に対して助け(告知)を提供すること」という一種の勧告となっています。教会の緊急医療センターのようなものです。教会は聖人のショールームではなく、罪びとの病院であると言われています。そしてよく言われているのが、

「完璧な教会を探しているのですか?」「はい。完璧な教会を探しています!」「分かりました。もし見つけても行ってはいけません。あなたが行けば完璧でなくなるからです。」どうでしょう?あるいは、これはどうでしょう?よくわからないけど、何か食べた時に思いついたかもしれません。信者ではない人に福音を伝えたり、教会に誘ったりすると、「あの教会は偽善者ばかりだ!!」と言われることがありますよね。その通りです。そこで私が言いたいのは「そうなんです。まだ十分スペースがありますから、さあ、行きましょう!」それがこの教会ですよ。それがその教会ですよ。それは、ありのままのあなたが行く場所です。キリストの身体としてその必要に駆けつけます。それが健全な教会であり、健全な体なのです。このような献身的な支援者は、特に困難な時期にどれほど貴重な存在であるかは、いくら強調してもし過ぎることはありません。私の個人的な考えですが、そのような時に、神が送ってくださる人たちは、天国で数え切れないほどの宝を持っている人たちだと思います。最後にこのように締めくくりたいと思います。私はこの話を置いていたので、聖霊に余裕を持ってもらいます。これはメモに書いてるようなものではなく、本当に心からのものだからです。お付き合いください。

妻と私は、当時5歳と3歳だった2人の息子を連れてハワイにきました。私の妻はこここの出身で、生まれも育ちもカイルアです。こんな言葉があります。カイルア生まれの女の子を連れ去ることはできても、彼女からカイルアを取り去ることはできません。そこで私は彼女を戻しました。摂理的な境遇、神の御心、神の御言葉、神の平安、神の助言者や才能のある助言者に話しました。約1年半の間に、私たちは「そうだこれは神の御心だ、ここに来て教会を始めよう」と決意しました。これは2003年のことで、実際に引っ越してきたのは2003年12月7日です。これは絶対に忘れられません。真珠湾攻撃の日ここに着きました。私はアラブ人です。神はユーモアのセンスを持っておられると思います。真珠湾攻撃の日です。そして9.11の直後の2001年で、この話は2003年のことです。そのため、当時は少し微妙な状況でした。私たちはここに来て、ただ着いただけで、最初の2、3年は大変でした。正直なところ、私は嘘の父の言葉を信じてしまっていて、実際に聞いていました。

「最大の失敗だぞ~これは神の御心ではない!妻を連れて来たかっただけ~ハワイに住みたかっただけ~」という嘘を信じるようになりました。「主よ。私はここにいます。私を遣わして下さい。」のようなものです。誰かがやらなければならないのです。最初の2、3年は残酷でした。酷かった。しかし、神は。私たちの人生に、言葉では言い表せないような人たちを送って下さいました。特にその時、感謝の気持ちでいっぱいでした。2004年、金曜の夜に聖書の勉強会を始めて、『ヨハネの黙示録』を読みました。始めるには良い方法だと思います。最初の日曜日の朝の礼拝は、参加者は12、13、14人ほどで、それが2005年2月2日のことした。繰り返しになりますが、だからこそ神にはユーモアのセンスがあられると思うのです。その日、スーパーボウルの日曜日だったのでよく覚えてます。私たちは最初の日曜礼拝をスーパーボウルの日に始めました。これは贈り物です。今になって、贈り物だと言えます。私たちはこういう待合室で会っているのですが、誇張ではありません。おそらく、同じ大きさとは言わないまでも、女子トイレよりは小さいと思います。それが、アロハ・プレグナンシー・アンド・カウンセリング・センター 私たちの教会でした。しばらくそうしていたのですが、神が扉を開けてくださり、カネオへのSDA教会を借りることができました。これは奇跡的なことでした。日曜である必要ないので、神が与えてくださったのです。私たちは12年間そこにいました。しかし、その直後、私たち夫婦は、3人目の子どもが出来たのを知りました。何度か妊娠したのですが、1人は妊娠中期で失いました。しかし、私たちはとても興奮していました。私たちは「神よ、女の子が欲しいです」と祈っていました。つまり、男の子が2人いると、もう充分です。女の子が欲しいです。もれなく、女の子を妊娠していて、妊娠8カ月目で、この子には異常があることがわかりました。医学界では、生命を維持できないとされる染色体の異常です。トリソミー18と呼ばれる染色体異常です。生きて生まれてくる確率は50%、1歳の誕生日を迎えられる確率は10%だと言われました。今、皆さんを見ているのですが、今日この礼拝には、その時に一緒にいた人もおられます。ご想像の通り、私と妻は完全に打ちのめされましたが、敵はすぐそこにいたので、助けにはなりませんでした。「ほら、言ったじゃないか、これは神の御心ではないと。ここで起きていることを見てみよ~」しかし、彼女は出産を乗り越え、私たちは彼女を蘇生させました。24時間体制のケアが必要でした。妻と交代で寝ることもありました。仕事を持っていて、それはテント作りのミニストリーでした。寝る際

は、私が朝4時から勤務していたので、彼女は娘のノエルと一緒に朝4時まで起きていました。今となつてはあつという間で、4ヶ月と6日の間、彼女と一緒に過ごしました。そして、カピオラニ病院で、私たちの腕の中で息を引き取り、イエスのもとへと旅立っていきました。神が私たちの人生に連れてこられた人達がいなかったら、そのような状況を乗り越えることはできなかつたでしょう。乗り越えることができなかったでしょう。私達の為にそこに一緒にいてくれた人達に言いたいのは、私は決して忘れません。あなた方が私達のためにそこにいてくれたことを、私は決して忘れません。私達を愛し、私達の為に祈り、私達の為にいてくれた。圧倒されました。ちなみに当時、教会はとても小さく、50人もいませんでした。つまり、言葉もありません。教会が成長し始めたのは、それから間もなくのことでした。私たちの人生を神に委ねました。あとは言うまでもありません。皆さんをとても愛しているので、それを伝えたくたのです。皆さんは、私のためにそばにいてくれました。決して忘れません。その中でどれだけ私を励まし、私達を愛してくれたことでしょうか。私はさらにお伝えしてから、締めくくります。あなたの愛、あなたの愛がなかったら、私は毎週のようにこの場に立っていることはできなかつたでしょう。この教会を見ていると、「主よ、ワオ！」という感じがしますね。これはあまりしない話ですが、しかし、時には主が「他の人を見つけたのに」と仰ることもあります。「救いが他のところからやってくる」他の誰かがこの素晴らしい教会、愛に満ちた教会の牧師としてここに立っていることを想像することさえできません。繰り返しになりますが、今なぜそこに行ったのかということです。私はあなたをとても愛しています、そして、あなたに感謝しています。この教会に来たばかりの人や比較的新しい人には、この教会について知っておいてほしいことがあります。この教会は愛に溢れた教会です。何度も言いますが、これが『最後』です。いいですか？「頼みますよ、もう死にそうです...」つという人もおられるでしょうが、もし私がこの教会の牧師でなかったら、ここが私が通う教会です。冗談でしょう？皆さんは本物です。さて、これで最後になりますが、皆さんお立ちください。賛美チームに上がってきてもらいます。今日は、第二礼拝の時にも登場してくれるかもしれません。オンライン・メンバーは、ワクチンが必要になる前に来たいと思っておられるので、オンライン・メンバーは大勢来られています。実際には、カリフォルニア州サクラメント出身のカップルのオンラインメンバーがいました。私はただ、感謝してもしきれないほどです。「わお、すごい教会だね！」と言われるので、私は「知ってるよ。」と言います。

それは健全なプライドです。いいですか？それは健全なプライドです。それは本当に祝福です。訪問者が、ここは本物の教会だと言うのを聞く牧師の気持ちは皆さん分からないでしょう。この教会は愛に満ちた教会で、私はあなたをとても愛していることを知ってほしいのです。私は皆さんをとても愛していて、とても感謝しています。さて、私も含めて皆さんのマスカラが取れてしまったところで、祈りませんか？

天の父よ、本当にありがとうございます。主よ、この聖句...、主よ、私達をお許してください。私達は、もしかしたら、ただ急いで通り過ぎたり、読み飛ばしたりしていたかもしれません。しかし、主よ、ここには私達のための御言葉があります。主よ、あなたが私達の人生に連れてきてくださる人たちに感謝したいと思います。今、私がこれを祈り、こう言っている間にも、本当に困難な時代にあなたが自分の人生に

連れてきてくださった人々のことを考えてる人たちがいます。もしかしたら、今がその時かもしれません。そして、あなたは、ちょうど良いタイミングで、ちょうど良い人を連れてきてくださり、彼らを支え、彼らと一緒に歩んでくれました。主よ、本当にありがとうございます。主よ、私達はあなたを愛しています。イエスの御名において。アーメン。